

## <金標準先物、ドル安・円高の巻き戻しで 7800 円以下へ・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）は、前月の前年比 8.2%を下回る 7.7%となり、12月のFOMCでは5回連続の 0.75%より、インフレ低下に伴う 0.5%の利上げが有望との見方が強まっている。特にローガン・ダラス連銀総裁やデーリー・サンフランシスコ連銀総裁は「利上げペースを緩めることが近く適切になり得る」との発言を行っている。

また中国では習近平主席が議長を務める共産党中央政治局常務委員会の会合で、コロナ感染拡大を抑え込む「より断固とした」対策が指示されたが、中国国家衛生健康委員会は、中国に入る渡航者の隔離期間を 10 日間の隔離期間を 8 日間に短縮し、濃厚接触者にも適用され、今後は濃厚接触者の濃厚接触者は特定されないと発表している。

先週の金標準先物は、金利低下のドル安を受けたドル建て価格の上昇や世界第 2 位の経済大国である中国の隔離政策の緩和を受けて 8049 円まで高値を試している。しかし為替市場では、金利差を根拠に円安・ドル高のポジションが膨らみ、CPI 以降では金利低下で円高・ドル安の動きが加速している。そのため円建ての金標準先物は、週末には円高を受けて 7842 円まで急速に下落しており、再度 7800 円以下を試す可能性は強まり見せて来ると思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足を MACD では、MACD が下げながらシグナルは上昇するなど、MACD とシグナルの乖離が縮小し、弱気への転換を示すクロスが近付いている。また RCI でも短期が下げだし、長期は上昇するなど目先のピークを過ぎた動きを見せている。そのため 40 日移動平均線が位置する 7800 円を試す可能性は高いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,210,000 円(2022 年 11 月 14 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 11 月 14 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>